

国文学研究資料館のデジタル戦略 国文学研究資料館長 渡部泰明 20240809

国文学研究資料館：1972 年創立。一国の文学の国立の機関は世界でも希少という。現在は、大学共同利用法人 人間文化研究機構に属し、立川市にある。教員数は特任を含んで、30 名ほど。

I 日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業として採択され、2014 年～2023 年の十年間実施された。

最大の成果は、「国書データベース」の構築。

30 万点の歴史的典籍（古典籍・史料）のデジタル画像を作詞、公開した。

コマ数でいうと約 3000 万コマの画像データとなる。これによって、いつでも・どこでも・誰でも、古典籍にふれることができるようにした。学会発表の場でも、即座に検証できる。

デジタル撮影に内製の手法を取り入れた。これをマニュアル化し、撮影機器を貸し出して、連携機関（図書館）に内製していただくことで、点数を飛躍的に増やした。

戦略 1 DOI（デジタルオブジェクト識別子）の付与

国際 DOI 財団が運営する、識別子から、デジタルオブジェクトの URL に変換するサービスにより、当館の画像 1 点 1 点に DOI を付与し、恒久的に研究資源に到達することを可能にした。

戦略 2 オープンな利用を推進

画像ビューアの下に国際的に通用するロゴでライセンス（クリエイティブ・コモンズ・ライセンス）を表示し、画像をどう使えるのか、利用手続きが一目でわかるようにした。

戦略 3 国際規格である IIF（トリプルアイエフ）対応ビューワの採用

準拠した画像ならば、世界中のデジタルアーカイブの画像ファイルも、1 つのビューワで利用可能。この IIF の普及には、ぜひ国立国会図書館が先頭に立ってほしい。

戦略 4 日本古典書誌データの標準化・国際化

- ① 司書対象の古典籍講習会等を開催
- ② 書誌情報作成マニュアルをオープン化
- ③ 国立国会図書館と共に「メタデータ流通ガイドライン」へ「古典籍編」を追加

戦略 5 他機関データベースとの連携等

他機関が提供するデータベースやポータルサイトと連携し、国文研 Web ページからだけで

はない幅広い利活用を可能にした。

国立国会図書館

国立情報学研究所

Japanknowledge

戦略6の1 オープンデータによる研究資源の公開

ROIS-DS CODH（人文学オープンデータ共同利用センター）と協働し、3種類のデータセットを公開した。

- (1) 100万文字字形データ
- (2) 日本古典籍データセット（画像データと書誌データのセット）
- (3) 江戸料理レシピデータセット

戦略6の2 機関間の国際連携と研究者の国際交流

MOUを締結するなど海外の機関との連携を行い、AAS・EAJRS・JADH・EAJS等の国際学会等で、大会開催、研究発表を行うなどして、研究者の国際交流を積極的に展開した。

なお、本事業への評価を中心に、デジタルアーカイブ学会より、2023年度デジタルアーカイブ学会学会賞・実践賞が国文学研究資料館に授与された。

受賞理由（一部）には、「長年にわたる活動と、古典籍研究のインフラを提供している点を評価して、実践賞を授与する。」とある。

また、文部科学省科学技術・学術審議会の作業部会の事業移行評価をへて、本事業の事業移行が認められ、引き続いて「データ駆動による課題解決型人文学の創成」プロジェクトを開始した。2024年度は約3億円の概算要求が認められた。

II データ駆動による課題解決型人文学の創成

～データ基盤の構築・活用による次世代型人文学研究の開拓～

本計画は、次の四つの柱から成る。

(1) データインフラストラクチャーの構築

さらに15万点の歴史的典籍のデジタル画像データを作成・公開する。

(2) 人文系データ分析技術の開発

国会図書館が公開しているAPI（異なったソフトウェア上で利用できる仕組み）を活用し画像データをテキストデータへと転換する。

このテキストデータをTEIなどの国際標準規格により構造化し、一般社会人や海外を含め、幅広い利用者に、多様な検索方法などで活用できるようにする。

転換は、機械的に翻字（くずし字を現代の活字に直す）したものを、研究者が校正テ

キストデータにする。さらに、最善の校訂本文や現代語訳へと展開する。

(3) コンテンツ解析からの展開

理系を含めた異分野融合研究を、共同研究を中心に進める。

史料レスキューなどを含む典籍防災学を進める。

典籍防災学を含め、典籍観光学など地域との連携を展開する。

(4) マテリアル分析・解析

微小部X線分析装置により、典籍の顔料・紙・混入物などの解析を行う。